

## 第7回 新食研「宅配弁当EXPO」WG 議事録

### 【開催概要】

- ・開催日時：2月27日（木）午後8時から
- ・開催場所：ふれあい歯科ごとうにて
- ・参加メンバー：五島先生、白井さん、村田さん（ライフデリ）、高瀬

### 【主な議題】

1. 最近のコロナウイルスの影響
  2. 他の団体・企業との連携など
  3. 次回の試食会イベントの予定
  4. 業界の協議会の立ち上げ
- 詳しくは後述ページにて

### 【次回予定】

次回のWGやイベントの予定など

- ・日時 4月8日（水）19時30分から
- ・場所 ふれあい歯科ごとうにて

### 【参考情報】

- ・介護食品協議会（ユニバーサルデザインフード）
- ー東京都の栄養士会、新宿区のケアマネなど
- ーヨシケイ、コープみらい、食と健康社など

## 【議題の内容】

### 1. 最近のコロナウイルスの影響

宅配弁当にも影響があり、サービス提供が大きく変わるケース出ている

- ・病院向けの給食では、配達の依頼そのものがストップ
- ・デイサービス向けの配食には、入口までの配達に制限
- ・その他に工場での仕入れや加工にも影響あり

→外へ買いに行けない/自前で調理できないところへ、お弁当や配食を持っていくサービスにも関わらず、これまで通りのサービス提供がしにくい状況になっている。

こういった特殊な要因・ケースの際にも、宅配弁当の各社が情報を共有することや、企業間の連携の打診できるようなネットワークが必要になってくる

各社によって配達スタッフの流通方法や、弁当の調理・提供方法にもよるが、1社だけの個別対応して、リカバリーしていくのも難しい可能性があり（東日本大震災の際にも、同様に配達や調理がスタックした経緯あり）

### 2. 他の団体・企業との連携など

ー東京都の栄養士会からは、以前の宅1グランプリの参加や講習セミナーの案内でも協力しており、今後も連携して進められないか打診あり

ー新宿区のケアマネからは、在宅向け生活支援サービスを冊子にまとめる、インフォーマル版ハートページのようなフリーペーパーの企画が挙がっており、そこでも、宅配弁当を特殊で取り上げられないか打診あり

ーその他に宅配・配食の企業では、ケアテックスに展示していたヨシケイや食と健康社、新宿にセンターがあるコープみらいも声をかけて、協力の意向あり

→こういった状況を見ても、宅配弁当の業界全体を底上げするような、企画・連携を後押しする周辺環境が揃ってきている

ただし、現状で各社がそろって打ち合わせや連絡する機会がないので、まずは次回の試食会イベントの開催を、今年の後半に予定して、それまでの

備・手配期間として、宅配弁当の協議会のような立ち上げを手配した方が良い

- ・試食会イベントの開催は10月ごろ（コロナウイルスや食中毒のリスクを避けて）
- ・参考例）介護食品協議会（新食研のメンバーでもあるので、話を聞きやすい）

### 3. 次回の試食会イベントの予定

- ・対象はエンドユーザー（利用者・家族）が中心になり、ケアマネ経由で呼んでもらって一緒に来てもらうのが良い
- ・開催は新宿区の介護福祉展などとの共催も検討したが、弁当・サービスの説明や試食などを情報のコントロールを考えると、単独開催で進めた方が、お弁当を頼む側と渡す側のミスコミュニケーションを防げて良い
- ・参考するイメージとしては、デパートの駅弁フェア
- ・試食は小皿に分けて、各社の弁当を色々食べ比べができるように、ある程度、提供方法を標準化した方が良い（弁当から取り分けだと、人気のものや残り物になってしまう）
- ・時期は10月ごろ（コロナウイルスや食中毒のリスクを避けて）
- ・場所は、けやき園のような特養の1階フリースペースも検討したが新宿にある昔ながらの団地の集会所スペースが良い（在宅ケアが必要な高齢者が多く、階段や移動のネックもあり）
  - －新宿であれば、候補としては戸山団地 or 百人町団地（百人町団地であれば既に新食研と連携して、動きやすい）
  - －また団地であればお客になる利用者・家族に直接的に説明・試食して、そのまま弁当の注文につながりやすい
  - －ただし集会所なので、使えるスペースやキッチン設備など、制限される可能性があるもので、今後の候補先など検討していく必要がある
- ・参加費は前回と同じように、若干程度取った方が良い（無料だと、別の目的の人がくるため）
- ・協力先には栄養士会やケアマネ、福祉系の大学など

### 4. 業界の協議会の立ち上げ

これまでの話にも挙げたように、宅配弁当の1社だけの個別対応だけでは、サービス提供に不利・不都合な部分も多く出てきており、業界横断で意見を集約して、行政や関係機関に意見できる立場が必要になってくる

#### 《特長とネック》

- ・まだまだサービスの知名度や理解度が低い
- ・お弁当だけではなくて、見守りや服薬などの付帯サービスの存在
- ・高齢者に向けた食形態の食べやすさや、栄養管理、病態食などの対応
- ・食べる楽しみとしての工夫や配慮
- ・コストに見合った料金を上げにくい
- ・配達スタッフの人材不足や給与水準
- ・配達時の駐車禁止や交通トラブル
- ・台風でも届けることを求められるケースなど

新食研としても、こういった在宅向けの食支援の取り組みに着手していくべきで、第3者として中立・公平な立場で事務局を立てて、協議会を立ち上げられる

－最初は新食研の運営会社WINWINの中に事務局としてスタートして、将来的には協議会のオフィスや学会、啓蒙キャンペーンなども可能

－エンドユーザーや専門職からの問い合わせ受付や電話対応も必要となることから、最低限の通信インフラや対応するスタッフ手配が必要

－このあたりには、活動主旨や定款なども必要になり、介護食品協議会でも同じようなプロセスだったため、聞いてみて参考にすることもできる

－また活動にあたっての実費も必要となってくるため、最初の内はやや金額をおさえて、参加する企業からの費用体験も検討すべき

例) 年会費で固定費や、参加する啓蒙イベントやキャンペーンで変動費など

#### ■次回のワーキンググループの予定

- ・日時 4月8日(水) 19時30分から
- ・場所 ふれあい歯科ごとうにて
- ・内容 次回のイベント予定と、協議会の立ち上げ